

07 こどもばんぱく（子ども）

5 （ナレーター）皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、中上真亜子がお届けします。

10 福岡市内に住む高校1年生の中井健翔（なかい・けん）さんは、中学2年生の時から、「こどもばんぱく」というイベントを主催しています。「こどもばんぱく」は、子どもたちが自由な発想で自分のやりたいことを考え、企画や運営もすべて子どもたちで行う交流イベント。これまで数多くの人々の心を動かしてきました。

15 5年生の時、いじめが原因で不登校になった経験があります。中井さんはなぜ、このイベントを始めたのでしょうか？

20 【中井健翔さん役】「この足が無かったら、いじめはなくなるかもしれない。」と、足を切ろうと思ったこともありました。でも、あんなに頑張っていていじめに耐えていたのに、不登校になっちゃったことの方がもっと辛かった。その時に感じていたモヤモヤした心の中を、絵本に描いたんです。部屋に閉じ込められて自分の気持ちを主張できない少女の物語なんです。ですが、それをあるイベントで販売した時、見ず知らずの大人

25 の方が「感動した」と褒めてくれたのです。それで自分に自信がつき、やっと自分を肯定できるようになりました。

30 そしたら、いじめる側のことを考える余裕もできたんです。もしかしたら、いじめた子たちは、塾や習い事に追われて好きなことができず、親の目を気にして自分の気持ちも言えなかったのかもしれない。そんな抑えつけられたストレスを僕にぶつけていたのかもしれない、と思うようになりました。

35 それなら僕が、普段、感情を表に出せない子どもたちの自己表現ができる場を作れば、いじめや不登校なども少しは減るかもしれないと思いました。

40 「こどもばんぱく」では、子どもたちが自分の力でお店を形にします。歴史が好きで歴史を語るトークショーを企画する子もいれば、手づくりのアクセサリーやポストカードを販売する子もいて、それぞれがいきいきと表現しています。

僕がそうだったように、さまざまなきづらさを抱える子どもたちにとって、「こどもばんぱく」のような場があれば、マイナスからプラスに変わるきっかけになると思うのです。